

平成 26 年 2 月 20 日

各 位

会 社 名 オンコリスバイオフーマ株式会社
代表者名 代表取締役社長 浦田 泰生
(コード番号：4588)
問 合 せ 先 管理担当取締役 六反田 靖
兼 経 理 部 長
(TEL. 03-5472-1578)

OBP-401 (テロメスキャン[®]) に関する論文掲載のお知らせ

当社が新規検査薬として開発に取り組んでおりますOBP-401 (テロメスキャン[®]) に関する論文が、米国癌研究会議 (AACR) が発行する学術雑誌「Cancer Research」の電子版に2月13日付で掲載されましたのでお知らせいたします。

本論文は、ペンシルバニア大学医学部 (放射線腫瘍学) Jay F. Dorsey博士らの研究グループによる研究成果に関するもので、OBP-401を用いることにより、脳腫瘍 (神経膠芽腫: GBM) 患者の末梢血中から高い感度と特異性をもって末梢循環腫瘍細胞 (CTC) を検出することに成功しました。また、放射線治療の奏功とCTC数に相関が認められることを示しました。特に、放射線治療が効かず病態が進行した症例ではCTC数が増加した一方で、偽増悪症例 (Pseudoprogression) ではCTC数が減少したことが報告されています。

Dorsey博士は、「EpCAMなどの上皮系細胞マーカーを欠く脳腫瘍細胞の検出は従来技術では困難だったが、上皮系マーカーに依存しないOBP-401を用いることで可能となった。本技術は放射線治療後の奏功判定に有用であり、今後の開発が期待される。」と述べています。

現在、脳腫瘍の診断や治療効果判定はMRI (核磁気共鳴画像法) 等の画像診断によって行われています。しかしながら画像診断では、主に放射線治療後に発生する偽増悪を見分けるのが困難であるなどの欠点も指摘されています。偽増悪とは放射線治療が効いているのに、一時的に病状が悪化する現象です。その一方で、脳腫瘍ではタンパク質性の血清腫瘍マーカーはほとんど実用化されていません。このような背景から、CTCを脳腫瘍の病態や治療効果の判定マーカーとして応用することが期待されています。

当社は試料提供契約 (MTA) に基づき、研究グループにOBP-401を提供しています。

この論文は <http://dx.doi.org/10.1158/0008-5472.CAN-13-0813> に掲載されています。

なお、本件による本年度業績への影響はありません。

以 上